

令和元年度文部科学省委託事業

# 学校安全総合支援事業 報告書



三重県教育委員会

## <目次>

1	はじめに .....	1
2	事業の趣旨・経緯 .....	2
3	学校安全総合支援事業推進委員会 .....	4
4	三重県の事業	
	（1）防災教育推進支援事業 .....	5
	（2）学校防災ボランティア事業 .....	6
	（3）度会町における防犯・交通安全の取組 .....	12
5	北勢地域の事業	
	（1）北勢地域での取組 .....	15
6	中勢地域の事業	
	（1）中勢地域での取組 .....	20
7	南勢地域の事業	
	（1）南勢地域での取組 .....	24
	（2）鳥羽市での取組 .....	29
	（3）志摩市での取組 .....	32
8	東紀州地域の事業	
	（1）東紀州地域での取組 .....	38
	（2）御浜町での取組 .....	41
9	おわりに .....	47

# 1 はじめに

「令和」という新しい時代を迎えても、全国的に大規模な自然災害が頻発しており、三重県においては、9月に県北部を中心とした記録的大雨に見舞われ、冠水した道路で1人の尊い命が失われました。10月には、台風第19号とそのあとに続いた前線と低気圧が想定外の猛威をふるい、99人の命が失われたほか、家屋の全壊、半壊は3万2千棟を超えるなど、全国各地に大きな爪痕を残しました。

このように、近年頻発している大規模自然災害や、学校管理下における事故、犯罪被害、交通事故などから子どもたちの命を守るため、学校安全の取組を進めていくことは極めて重要です。

文部科学省においては、市町村教育委員会を中心として、学校安全の組織的取組や、外部専門家の活用、国私立を含む学校間の連携を促進し、地域全体での学校安全推進体制を構築するとともに、その仕組みを県域等へ普及することで、県内全域での学校安全の取組の推進をめざす「学校安全総合支援事業」を実施しています。

三重県教育委員会では、平成24年度から本事業を受託し、中高生が東日本大震災の被災地を訪問し、交流学習や心のケア等のボランティアを行う「学校防災ボランティア事業」をはじめ、学校におけるさまざまな防災教育や防災対策、交通安全、防犯対策を実践してきました。

このたび、令和元年度「学校安全総合支援事業」の成果を本書にまとめましたので、学校安全の一助にさせていただきましたら幸いです。

令和2年2月

三重県教育委員会事務局

## 2 事業の趣旨・経緯

### (ア) 事業名

学校安全総合支援事業（学校安全推進体制の構築）

### (イ) 事業の趣旨

平成 28 年度に閣議決定された「第 2 次学校安全の推進に関する計画」に基づき、国において、安全教育、安全管理、組織活動の各内容を網羅して解説した総合的な資料として、「学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」が平成 31 年 3 月に改訂された。

「学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」においては、学校種ごとに安全教育の目標を定めており、中学校では、災害発生メカニズムの基礎、さまざまな地域の災害事例と日常の備えや災害時の助け合いの大切さへの理解、自他の安全のための主体的行動、地域の安全への貢献などとしており、高等学校では、安全で安心な社会づくりの意義、地域の自然環境の特色と自然災害の種類、我が国のさまざまな安全上の課題への理解、自他の安全状況の適切な評価、安全な生活を実現するための適切な意思決定と行動、地域社会の一員として自らの責任ある行動や地域の安全活動への積極的な参加、安全で安心な社会づくりへの貢献などとしている。

これらの目標を達成するにあたっては、県及び市町において、これまでの事業等で蓄積したさまざまな先進事例も踏まえながら、学校種・地域の特性に応じた継続的で発展的な学校安全に係る取組を地域が一体となって進めることができる体制を構築することが必要である。

本事業は、市町教育委員会を中心として、域内の学校で学校安全の組織的取組、外部専門家の活用、国私立を含む学校間の連携を促進し、地域全体での学校安全推進体制を構築するとともに、県域等へその仕組みを普及することを支援し、受託自治体内全域での学校安全の取組の推進をめざすものである。

### (ウ) 事業の内容

学校種・地域の特性に応じた地域全体での学校安全推進体制の構築を図るため、県の教育委員会がモデルとなる地域（以下「モデル地域」という。）を設定し、モデル地域の市町等教育委員会が中心となってモデル地域全体での学校安全推進体制を構築する。モデル地域の実践を通じて得られた体制構築の成果等については県内の他地域にも普及し、県全体としての持続的な体制整備の構築へと広げ、県内のすべての地域において学校安全推進体制を構築する。

### (エ) 三重県におけるこれまでの経緯

平成23年3月11日の東日本大震災を受け、平成24年度に「実践的防災教育総合支援事業」として始まったこの事業は、平成27年度からは「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」、平成30年度からは「学校安全総合支援事業」として、内容の充実を図りながら継続し、全国で取組が進められている。

三重県教育委員会においては、令和2年2月29日までの事業計画を文部科学省に提出し、6月18日付けで委託契約を結んだ。また、事業の円滑な実施のため、三重県教育委員会から鳥羽市、志摩市及び御浜町に再委託を行うこととした。

### (オ) 成果の普及

この事業の取組による成果を、本報告書を活用し、県内の市町等教育委員会や各学校等へ普及・共有し、子どもたちの命を守るための学校安全の推進を図っていくことが求められている。

あわせて、各学校に設置している「学校防災リーダー」を対象とした研修会等で、事業の成果について報告と説明を行い、学校内及び域内へ浸透させていくことが重要である。

### 3 学校安全総合支援事業推進委員会

#### (ア) 目的

県教育委員会は、事業の円滑な実施のため、事業の実施方針や県内への普及計画の検討、モデル地域の市町等教育委員会への情報共有・指導・助言・支援、県における取組の検証を行う「推進委員会」を設置する。

#### (イ) 第1回推進委員会

- ① 日時：令和元年12月6日（金）13時30分から15時まで
- ② 場所：三重県津市
- ③ 議題：（1）昨年度の事業報告について  
（2）今年度の事業計画及び中間報告について  
（3）県内各市町の防災教育の取組について

#### (ウ) 第2回推進委員会

- ① 日時：令和2年2月26日（水）10時00分から11時30分まで
- ② 場所：三重県津市
- ③ 議題：（1）今年度の事業報告  
（2）課題及び今後の取組

#### <推進委員会委員名簿>

所 属	職 名	氏 名
三重大学大学院工学研究科	准教授	浅野 聡
三重県教育委員会事務局高校教育課	充指導主事	柏端 正康
三重県教育委員会事務局小中学校教育課	指導主事	笹ノ内 昭人
三重県環境生活部私学課	主幹	中川 剛
度会町教育委員会事務局	事務局長	中川 美知彦
鳥羽市教育委員会事務局	指導主事	奥山 能隆
志摩市教育委員会事務局	指導主事	高岸 三枝
御浜町教育委員会事務局	主幹兼指導主事	南 圭輝
三重県防災対策部消防・保安課	課長補佐兼班長	藤原 弘一
三重県教育委員会事務局生徒指導課	主幹（警部）	大橋 秀樹
津地方气象台	防災管理官	野内 修一

## 4 三重県の事業

### (1) 防災教育推進支援事業

#### 家庭、地域と連携した防災の取組の推進

いつ起きてもおかしくない南海トラフ地震や津波、頻発する台風や局地的大雨等の自然災害から児童生徒を守るためには、「自助」の防災教育の推進とともに、学校が家庭や地域と連携し、防災力の一層の強化を図ることが重要である。

県教育委員会では、学校防災リーダー等を中心に家庭や地域と連携した防災の取組を実施する学校に職員等を派遣し、防災教育の推進を支援する防災教育推進支援事業を平成24年度から実施している。

同事業では、児童生徒の防災学習、教職員の防災研修をはじめとして保護者や地域住民と連携して防災学習や研修、訓練などの支援を行ってきており、令和元年度までには延べ1,300校近くが利用している。

防災講話や研修講義などの座学だけでなく、地震体験、防災タウンウォッチングや防災マップ作り、防災体験キット（防災すごろく、防災カルタなど）、液状化実験やストローハウスなどの体験型防災学習や、避難所運営ゲームなどの図上訓練指導などの様々な支援プログラムを用意しており、児童生徒の発達段階や学校の実情に応じて柔軟な対応ができるようになっている。

事業の実施にあたっては、三重県教育委員会学校防災アドバイザーや教育総務課職員を学校に派遣するだけでなく、県防災対策部やみえ防災・減災センター、津地方気象台などとの連携を図るとともに、みえ防災人材バンクにも支援を依頼するなど、幅広い人材を活用している。

以前は、支援要請のあった学校を訪れ、ニーズに応じたプログラムを実施するに終わっていたが、児童生徒の防災意識を向上させるためには、体験的な防災学習を取り入れることが効果的であることを各種研修会等でアピールすることにより、内容に工夫を凝らした防災学習を実施する学校が近年増えてきている。

また、地域と一体となった防災の取組の重要性を訴えることにより、学校開放日に防災学習を実施したり、PTAや地域住民との研修会で防災をテーマとして取り上げたりするなど、防災における学校と地域の連携や地域の防災意識の向上に役立っている。

さらに多くの学校に活用してもらうために、県内各地域の防災に関する研修会等で、同事業の意義や効果について説明したり、先進的な取組を行っている学校の事例を紹介したりする機会を作って活動の活性化を図っている。

## (2) 学校防災ボランティア事業

～被災地支援をととした体験型防災学習の推進～

### (ア) 学校防災ボランティア事業

近い将来南海トラフ地震の発生が危惧される三重県では、県内の中高生が自らの命を守り抜くことに加え支援者となる視点から、安全で安心な社会づくりに貢献できる知識や能力を習得することが求められている。

四日市大学総合政策学部の鬼頭浩文教授に学校防災アドバイザーとしてコーディネートやアドバイスをいただきながら、8月5日(月)から8日(木)にかけて「学校防災ボランティア事業」として県内の中高生を宮城県や福島県の被災地に派遣し、現地の方々との交流や心のケア等を含めたボランティア活動、防災学習を行うことなどにより、大規模な自然災害発生時に地域で自ら行動できる防災人材の育成に取り組んだ。

また、この事業を通じて学んだ東日本大震災の教訓や取組成果を県内で伝えることで、地域防災活動への意識向上をはかり、防災教育・防災対策の推進につなげることができた。

### I 事前学習会(7月14日)

8月に東北を訪問する前に、基本知識を習得するため、ハザードマップや近年の自然災害、地震のしくみなどについて学習した。

四日市大学の鬼頭教授の協力により、防災士資格取得カリキュラムにも位置付けた授業内容とした。

東日本大震災の被災地を訪問する現地学習会では、班別行動が主となることから、中高生は6つの班に分かれて、被災地支援の経験のある大学生のサポートを受けながら、参加目的等を発表し、意見交換した。



## Ⅱ 現地学習会

### 【第1日目（8月5日）】

宮城県までのバス移動中は、ビデオカメラを回しながら自己紹介とそれぞれの目標を発表した。

また、バスの車内においても、防災学習として、旧大川小学校や福島県富岡町などを特集したビデオを見て、これから視察などを行う場所や、そこで起きた災害や出来事などについて学習し、予備知識を身につけた。

夜10時、活動の拠点となる東松島市のあおい地区（男子：3丁目集会所、女子：西集会所）に到着した。先に来ていた兵庫県中高生防災ジュニアリーダーの皆さんとそれぞれ顔合わせをした後、持参したマットや寝袋を使って、避難所における宿泊体験を行った。

### 【第2日目（8月6日）】

兵庫県中高生防災ジュニアリーダーと一緒に活動を行った。

まず、朝食を兼ねてポリ袋炊飯訓練を行った。

鬼頭先生から、上手に炊くためのコツは、袋の空気をしっかり抜いて、袋の上の方で結ぶことだと伺った。

災害時は水が貴重になることから、この方法では少ない水でたくさんの食事を作ることが可能とのお話であった。

青い鯉のぼりプロジェクトの伊藤健人さんから、ご家族の捜索時に見つかった青い鯉のぼりを、5歳で亡くなった弟や同じ東日本大震災で亡くなった子どもたちのために、地震や津波の心配の無い大空高くに揚げようと始めたプロジェクトについて伺った。

テレビや新聞などのメディアから聞く話とは違い、被災者から直接聴く話は、それぞれの気持ちや想いが伝わってくると同時に、津波の恐ろしさを痛感させられた。

続いて、災害公営住宅の入居者の見守り訪問や、イベントなどを行って住民の方々との交流を行うことなどがボランティアに求められていることから、戸別訪問や流しそうめん交流会などを実施し、災害公営住宅の皆さんと交流を図った。

午後は、東北大学非常勤講師の齋藤幸男先生から、石巻西高校の教頭時代に体験した避難所運営の実際について伺った後、ワークショップを実施した。

避難所運営において中高生でもできることがあることに驚かされた。

あおい地区の住民の方と、三重・兵庫の中高生がテーブルを囲んで、バーベキュー交流会を行った。避難所の経験のことだけでなく、最近の身の回りに起こったことなど、ざっくばらんにいろいろなお話をしたり、みんなで輪になり、阪神・淡路大震災や東日本大震災にちなんだ歌「しあわせ運べるように」や「花は咲く」を合唱したりして、心のケアに繋がったと感じた。

あおい地区会の小野竹一会長からは、あおい地区会設立までの経緯として、「あおい」という地区の名前を子どもも含めた住民投票で決めたことや、危険なブロック塀を造らないようルールを工夫したことなどについて、詳しくお話しいただいた。



### 【第3日目（8月7日）】

旧大川小学校の視察を行った。講師の只野英昭さんからは、川を遡上する津波の恐ろしさとともに、学校のすぐ近くにある裏山になぜ登らなかったのかという疑問、市役所などの対応について伺いながら、甚大な被害を受けた校舎を視察した。津波は建物の2階部分も押し上げ、天井を壊す威力を持ち、その爪痕はしっかりと旧大川小学校に残っていた。ここでは、マニュアルどおりではなく、命を守る最善の方法をとることの大切さを学んだ。

「東松島市震災復興伝承館」で、震災前の東松島の姿、震災が残した爪痕、復興の過程について学んだあと、津波で多くの被害を受けた旧野蒜駅のプラットフォームを視察した。

また、T T T (TUNAGU Teenager Tourguide of Higashimatushima) の、震災当時小学生だった小山綾さんと武山ひかるさんから、被災時の状況や子どもたちの様子、そこから語り部になろうと思ったきっかけなどについてお話を伺った。

被災者でありながら、行政側の立場から復興のまちづくりを進めてきた難波和幸さんからは、避難所の状況や福祉避難所の運営、ボランティアの調整などについて伺った。行政側のお話は、今回の学習会の中では初めてで、復興のまちづくりの大変さや、一日も早い住民生活基盤の復旧に取り組んできた方々の思いや情熱、課題などを理解することができた。

災害ボランティアセンターの千葉貴弘さんから、多くの高校生が運営を手伝ったことを聞いた。中高生でも、ボランティアをするだけでなく、ボランティア受け入れを手伝ったり、被災者のニーズを聞きだしたりするお手伝いができることができた。また、ボランティアの心得、例えば、ボランティアに出かけるときはボランティアセンターに相談してから行くことや、被災者の気持ちに寄り添う、心の痛みを思いやることなどについて教えていただいた。



#### 【第4日目（8月8日）】

福島第一原子力発電所の事故の影響により、帰還困難区域が設定されている福島県双葉郡富岡町を、現地で語り部活動を行っている渡辺好さんの案内によりバスで周りながら見学した。

東日本大震災から8年半が経とうとするなか、未だにバリケードが設置されている帰還困難区域があり、ところどころに警備員が立っていた。現地をバスで周りながら、語り部の渡辺さんに現状をお話いただいた。

富岡町には、帰る自宅があるにもかかわらず、帰れない方がたくさんいるということに衝撃を受けた。

帰路はバス車内で、中高生による被災地支援、若者のボランティア活動等についてのビデオ学習をした。

ボランティアに行っても、邪魔になるだけではないかという不安があったが、若い人が被災地を訪れるだけで、ボランティアになるということ、「いるだけ支援」というボランティアがあることなどを学んだ。



### Ⅲ 事後学習会

東北でのボランティア活動の思いや記録を共有しながら、これまでの活動を振り返って、各学校の集会や文化祭、市町等で報告会を行うための発表資料づくりを行った。

参加生徒がそれぞれ、東北での講話を振り返り、これから自分たちができること、伝えていくこと、すべきことを話し合いながら、6つの班で分担して、資料をまとめた。

事後学習会には、知事の訪問があり、参加生徒から今回の活動で学んだことについて説明したあと、生徒がそれぞれ感じたこと、これからどのように防災に取り組んでいくかなどについて、知事と意見交換を行った。

また、四日市消防本部、四日市大学機能別消防団に所属している四日市大学の学生の協力を得て、防災士試験受験に必要な普通救命講習を受けた。

普通救命講習は3時間の講習で、倒れている人の肩を両手でしっかり叩いて呼び掛けたり、周りの人に助けを呼んできてもらうよう頼んだりする訓練や、人工呼吸や心臓マッサージ、AEDの使い方など基本的な救命技術を身につけた。



## (イ) 中高生防災サミット

南海トラフ地震発生による甚大な被害が危惧されている三重県では、大規模災害後の復旧・復興プロセスにおいて必要となる取組などを東日本大震災の被災地における事例や教訓から学んでいくことが重要である。

そこで、東日本大震災による津波で自宅が流されてしまい、避難所生活を余儀なくされた経験から、現在は震災語り部として活動されている、佐藤麻紀さんをお招きし講演いただいた。

また、被災地支援や防災ボランティア活動に取り組む県内の中高生及び大学生が取組内容を発表するとともに、避難所運営ゲーム（HUG）を実施し、災害時にどのようなことが起こるかを考え、事前の備えの重要性について話し合った。

- 1 日 時 : 令和2年2月9日(日)
- 2 場 所 : 四日市大学 食堂(四日市市)
- 3 内 容 :

### 午前の部

- 講演「私が体験した東日本大震災 ―知らないことは怖いこと―」  
震災語り部 佐藤 麻紀 さん

- 防災活動発表会

- ① 四日市東日本大震災支援の会
- ② 中高生による「学校防災ボランティア事業」

### 昼食

- 四日市学生消防団による炊き出し訓練

### 午後の部

- 避難所運営ゲーム【HUG】

講師・ファシリテーター：鬼頭 浩文さん

(四日市大学総合政策学部教授・四日市東日本大震災支援の会代表)

- 避難所運営ゲーム【HUG】を終えて

助言者：鈴木 昂樹さん・北村 潤さん

(東北地方出身、元四日市東日本大震災支援の会)

- 参加者全員による振り返り学習とまとめ



### (3) 度会町における防犯・交通安全の取組

#### (ア) 実践委員会の実施

まず、事業の実施にあたり、8月27日度会町教育委員会、度会小学校、度会中学校、県立南伊勢高等学校度会校舎、県立度会特別支援学校と関係機関である、度会町防災環境課、伊勢警察署麻加江駐在所、伊勢警察署棚橋駐在所が参加して、実践委員会を開催した。

この実践委員会では、各学校における今年度の学校安全に係る取組を共有し、そのうえで、町内の通学路等における危険箇所等を把握する必要性とその対策、各学校間と地域との連携促進等について協議を行った。

また、小学校及び中学校で実施する安全教室の内容について意見を出し合い、度会校舎の高校生が参加する安全教室を出前授業という形で実施した。

第2回実践委員会を2月18日に開催し、小中学校で実施した安全教室の児童生徒の感想等を振り返り、来年度につなげるとともに、通学路等の調査結果を共有することで、各学校の安全計画に基く取組状況を確認しながら、次年度に向けての相互連携等について話し合うこととしている。



#### (イ) 学校安全教室の実施

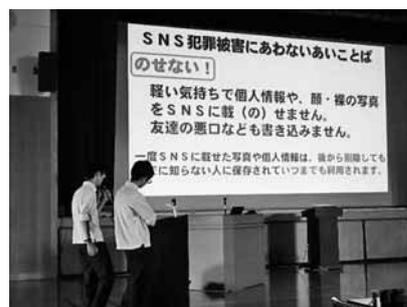
各学校においては、学校保健安全法 27 条に基づき（「安全に関する事項について計画を策定し、これを実施しなければならない」）、学校安全教室等を実施しているところである。

度会町においては、町で唯一の高等学校である県立南伊勢高等学校度会校舎の高校生が教員とともに小中学校に出向き、小学生（1～4年生、5～6年生）と中学生（各学年）向けの安全教室をそれぞれ実施し、防犯と交通安全の視点を伝える取組を行った。



伝える側の高校生は、度会町の出身で、度会小学校、度会中学校の卒業生で、子どもたちにとっても身近な先輩ということもあり、町内の危険箇所等の写真を交え、わかりやすく伝えることができた。

今回の取組では、高校生が参加したことで、小中学校にとっては、同じ地域に住んでいる先輩から通学路等の安全について聞くことができ、より身近に感じられ、イメージしやすく実践しやすい内容として伝わったと考えている。



### (ウ) 通学路等の安全点検等の実施

県教育委員会が、警察官等OB 2名をアドバイザーに委嘱し、度会町内の通学路の点検と安全調査を行い、その結果については度会町教育委員会を通じて小中学校に情報共有している。

また、アドバイザーからは、町内の通学路で児童生徒の安全を見守っていただいているスクールガード（学校安全ボランティア）の方に対しても、スクールガード自身の安全確保について指導助言を行った。

さらに、アドバイザーからは登下校している児童等の様子から、防犯ブザーや防犯ホイッスルの携行率が低いことを指摘させていただき、教育委員会を通じ保護者に対しても防犯ホイッスル等の携行について啓発している。



### (エ) 成果と課題

- ・ 学校周辺の道路状況等をアドバイザーが調査したことにより、これまで危険の認識がなかった場所を危険箇所と認識することができた。その結果、改善を行い、児童生徒の安全確保につなげることができた。
- ・ 高校生による出前授業（安全教室）を実施し、小中学生の危険予測・危険回避能力と安全意識の向上につなげることができた。
- ・ 防犯ブザー等の必要性を、児童生徒と保護者、スクールガードに周知・啓発することができ、町全体としての安全体制の整備がすすめられた。
- ・ 町教育委員会の「通学路交通安全プログラム」に基づく推進会議に、今まで

参加していなかった南伊勢高等学校度会校舎が参加し、高校側の意見も取り入れ、町全体の交通安全の連携促進につながられた。さらには、高校生の登下校における交通安全の意識の変容に繋がった（自転車通学生のヘルメット着用者の増加）。

- 今後は、道路管理者を含め、道路改善が必要とする箇所を町内で把握し、学校間及び、関係機関との連携を強め、警察等と連携し地域全体で通学路の安全確保を効果的に取り組む必要がある。



## 5 北勢地域の事業

### (1) 北勢地域での取組

#### (ア) 防災教育推進支援事業

##### ○ 学校防災リーダー等教職員研修会

日時 令和元年8月21日(水)

場所 菰野町町民センター(大ホール)

対象 北勢地域の小・中・高等学校、  
特別支援学校の防災担当教職員147人

内容 講義、防災教育実践事例紹介 他

講師 川口 淳 三重大学大学院准教授

水木 千春 みえ防災・減災センター助教他

具体的な内容

- ・ 講義を聞くことにより、学校防災リーダーとしての役割を学ぶとともに、各学校の防災教育・防災対策に取り組むための意識の向上、防災に関する最新の知識・技能の習得、学校で防災の取組を推進していくための指導力、企画力の向上を図った。
- ・ さらなる防災教育の充実に向けて、家庭・地域と連携した防災の取組を先進的に行っている学校の事例を紹介し、北勢地域の各学校への浸透を図った。

##### ○ 体験型防災学習実践研修会

日時 令和元年10月16日(水)

場所 三重県四日市庁舎

対象 北勢地域の教職員10人

内容 避難所運営ワークショップ

講師 齋藤 幸男 東北大学非常勤講師

具体的な内容

- ・ 避難所運営ワークショップを体験したり、講師から東日本大震災時に石巻西高で被災し、避難所運営をした経験を聞いたりすることにより、学校が避難所になった際に生じるさまざまな課題について知り、避難所を運営するにあたり備えておくべきことを考えるきっかけとなった。



## ○ 家庭や地域と連携した各校の防災教育

学校防災アドバイザー（渡邊 喜内・大須賀 由美子）を講師として派遣し、防災教育の推進を支援した。

### ① 桑名市立星見ヶ丘小学校

日時 令和元年7月5日（金）

対象 6年生70人

内容 「防災講話」「地震体験」

具体的な内容

- ・ 防災講話を聞き、実際に地震が起こったときにどのような行動をとればよいかを理解した。
- ・ 三重県防災啓発車（地震体験車）を活用しての地震体験を行い、防災講話で学習したことを実際に行動に活かした。

### ② 四日市農芸高等学校

日時 令和元年9月5日（木）

対象 全校生徒711人、地域住民33人

内容 「地震体験」「炊き出し」「避難所運営ゲーム（HUG）」

具体的な内容

- ・ 学校の防災訓練の一環として、三重県防災啓発車（地震体験車）を活用して地震体験を行うとともに、地域住民にも参加を呼びかけて炊き出し訓練を行った。発災時に自分の身を守る方法を知り、防災意識を高めることができた。
- ・ 避難所運営ゲーム（HUG）を行うことにより、学校が避難所になった際の課題について知り、その対応方法を考えることで、日頃から災害に備えることの重要性に気づく機会となった。

### ③ 桑名高等学校定時制

日時 令和元年9月12日（木）

対象 全校生徒45人、教職員、保護者

内容 「防災講話」「地震体験」「液状化実験」

具体的な内容

- ・ 三重県防災啓発車（地震体験車）を活用しての地震体験を行い、地震が起こったときに自分の身を守る方法を知るとともに、防災についての意識を高めることができた。

- ・ 液状化の仕組みを知ったうえで、液状化実験の体験型の防災学習を行うことにより、楽しみながら防災についての知識を身につけた。

#### ④ 亀山市立昼生小学校

日時 令和元年11月8日（金）

対象 全児童70人、職員12人、保護者35人、地域住民15人

内容 「液状化実験」「地震体験」「防災講話」「クロスロード」

具体的な内容

- ・ 「災害から守ろう自分の命、みんなの命」と題した講話を聞き、災害から子どもたちの命を守るためには学校、家庭、地域の連携が必要であることを保護者や地域の人と共に考えた。
- ・ 保護者・地域住民を対象に実施したクロスロードでは、災害時に発生するさまざまな課題について意見交換し、多様な考えに気づくことができた。
- ・ 児童だけでなく、保護者、地域住民にも参加してもらうことによって、地域全体の防災意識向上に役立てられた。

#### ⑤ 四日市市立中部西小学校

日時 令和元年11月16日（土）

対象 4年生79人、保護者

内容 「防災講話」「液状化実験」「防災かるた」

具体的な内容

- ・ 親子で防災講話を聞くことにより、防災意識を高めるとともに、家庭でできる災害への備えについて考えた。
- ・ 液状化実験、防災かるたなどの体験型の防災学習を行うことにより、楽しみながら防災についての知識を身につけた。



#### ⑥ 菟野町立八風中学校

日時 令和元年11月28日（木）

対象 1年生133人

内容 「液状化実験」「ストローハウス」「地震体験」

具体的な内容

- ・ 液状化実験、ストローハウスなどの体験型の防災学習を行うことにより、楽しみながら防災についての知識を身につけた。
- ・ 三重県防災啓発車（地震体験車）を活用しての地震体験を行い、自分の身を守る方法を知るとともに、防災についての意識を高めることができた。



## (イ) 学校防災ボランティア事業

### ① 桑名西高等学校

日 時 令和元年8月30日(金)

参加者 全校生徒及び地域住民

内 容

- ・ 避難訓練、四日市大学鬼頭教授の防災講話
- ・ 事業参加生徒の取組成果報告

### ② 暁高等学校

日 時 令和元年10月23日(水)

令和2年 1月15日(水)

参加者 1・2年生全員

内 容

- ・ 事業参加生徒の取組成果報告



### ③ 暁中学校・高等学校

日 時 令和元年12月21日(土)

参加者 全校生徒

内 容

- ・ 事業参加生徒の取組成果報告



### ④ 四日市市立大池中学校

日時 令和2年1月8日(水)

対象 全校生徒

内 容

- ・ 避難訓練
- ・ 事業参加生徒の取組成果報告





## 6 中勢地域の事業

### (1) 中勢地域での取組

#### (ア) 防災教育推進支援事業

##### ○ 学校防災リーダー等教職員研修会

日時 令和元年7月29日(月)

場所 津市河芸公民館(大ホール)

対象 中勢地域の小、中、高等学校、  
特別支援学校の防災担当教職員262人

内容 講義、防災教育実践事例紹介 他

講師 川口 淳 三重大学大学院准教授

水木 千春 みえ防災・減災センター助教

渡邊 喜内 三重県教育委員会学校防災アドバイザー 他

具体的な内容

- ・ 講義を聞くことにより、学校防災リーダーとしての役割を学ぶとともに、各学校の防災教育・防災対策に取り組むための意識の向上、防災に関する最新の知識・技能の習得、学校で防災の取組を推進していくための指導力、企画力の向上を図った。
- ・ さらなる防災教育の充実に向けて、家庭・地域と連携した防災の取組を先進的に行っている学校の事例を紹介し、中勢地域の各学校への浸透を図った。

##### ○ 体験型防災学習実践研修会(津会場)

日時 令和元年10月17日(木)

場所 勤労者福祉会館(講堂)

対象 中勢地域の教職員7人

内容 避難所運営ワークショップ

講師 齋藤 幸男 東北大学非常勤講師

具体的な内容

- ・ 避難所運営ワークショップを体験したり、講師から実際の石巻西高で被災し、避難所運営をした経験を聞いたりすることにより、学校が避難所になった際に生じるさまざまな課題について知り、避難所を運営するにあたり備えておくべきことを考えるきっかけとなった。

## ○ 体験型防災学習実践研修会（伊賀会場）

日時 令和元年10月21日（月）

場所 三重県伊賀庁舎

対象 中勢（伊賀）地域の教職員6人

内容 体験型防災学習の実体験、  
防災グッズ制作  
防災教育実践事例紹介

講師 津地方気象台職員

大須賀 由美子 三重県教育委員会学校防災アドバイザー 他

具体的な内容

- ・ 授業で活用できる気象実験などの体験型防災学習を行うことにより、児童生徒が学んだ知識を実感・体得したり、家庭・地域と一体となった防災の取組を進めたりする手段として大変有効であることを参加者が学び、現場の学校教育の実践に役立ててもらった。



## ○ 家庭や地域と連携した各校の防災教育

学校防災アドバイザー（渡邊 喜内・大須賀 由美子）を講師として派遣し、防災教育の推進を支援した。

### ① 津市立南立誠小学校

日時 令和元年7月24日（水）

対象 教職員26人

内容 「災害対応図上訓練（DIG）」

具体的な内容

- ・ 事前打ち合わせを念入りに行い、学校と学校周辺の情報を聞いた上で、巨大地震の設定を行った。教職員を2つの班に分かれて、巨大地震とその後の津波対応について考えた。実際に想定されるさまざまな問題に対して素早く判断していく経験をした。周辺地図を見直しながら、より安全な避難やさまざまな問題に対しての対処方法を確認することができた。

### ② 松阪あゆみ特別支援学校

日時 令和元年8月8日（木）

対象 教職員60名

内容 「研修講義（防災ノートの有効な活用方法）」

#### 具体的な内容

- ・ 特別支援学校の現場では防災ノートの活用に悩んでいて活用が十分できていない、という課題があるということで、教員研修の依頼を受けた。防災ノートの大まかな仕組みやどのようにわかりやすくアレンジするかを他の特別支援の例を紹介しながら、防災ノート活用の促進を図った。

### ③ 三重県立学校事務職員協会

日時 令和元年8月9日（金）

対象 県立学校事務職員25名

内容 「避難所運営図上訓練（HUG）」

#### 具体的な内容

- ・ 学校が避難所になった際の状況を仮想的に体験することができる避難所運営図上訓練（HUG）を行った。学校事務職員として何をすべきかについて考える機会となった。

### ④ 松阪市立德和小学校

日時 令和元年10月4日（金）

対象 3年生134人

内容 「地震体験」「防災講話」

#### 具体的な内容

- ・ 防災講話を聞き、地震のメカニズム、地震の揺れの種類、過去の災害や復興の様子、今後起こりうる災害等について学ぶことができた。
- ・ 三重県防災啓発車（地震体験車）を活用しての地震体験を行い、自分の身を守る方法を知るとともに、防災についての意識を高めることができた。

### ⑤ 伊賀市立島ヶ原小中学校

日時 令和元年10月15日（火）

対象 全校児童生徒118名

内容 「絵本・紙芝居」「防災すごろく」

#### 具体的な内容

- ・ クイズに挑戦しながらゴール（避難場所）をめざす「防災すごろく」を通して、災害発生時の行動について考えることができた。縦割り班で防災すごろくを行った。
- ・ 紙芝居や絵本の読み聞かせを通して、防災について学んだ。

## (イ) 学校防災ボランティア事業

### ① セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校

日 時 令和元年8月30日(金)

参加者 全校生徒

内 容

- ・ 事業参加生徒の取組成果報告

### ② 飯南高等学校

日 時 令和元年9月18日(水)

参加者 1年生全員

内 容

- ・ 事業参加生徒の取組成果報告



### ③ 昴学園高等学校

日 時 令和元年10月23日(水)

参加者 2年生全員

内 容

- ・ 事業参加生徒の取組成果報告



### ④ 松阪高等学校

日 時 令和元年12月18日(水)

参加者 1年生全員

内 容

- ・ 事業参加生徒の取組成果報告



## 7 南勢地域の事業

### (1) 南勢地域での取組

#### (ア) 防災教育推進支援事業

##### ○ 学校防災リーダー等教職員研修会

日時 令和元年8月26日(月)

場所 伊勢市防災センター

対象 南勢地域の小、中、高等学校、  
特別支援学校の防災担当教職員148人

内容 講義、防災教育実践事例紹介 他

講師 川口 淳 三重大学大学院准教授

水木 千春 みえ防災・減災センター助教

渡邊 喜内 三重県教育委員会学校防災アドバイザー 他



##### 具体的な内容

- ・ 講義を聞くことにより、学校防災リーダーとしての役割を学ぶとともに、各学校の防災教育・防災対策に取り組むための意識の向上、防災に関する最新の知識・技能の習得、学校で防災の取組を推進していくための指導力、企画力の向上を図った。
- ・ さらなる防災教育の充実に向けて、家庭・地域と連携した防災の取組を先進的に行っている学校の事例を紹介し、南勢地域の各学校への浸透を図った。

##### ○ 体験型防災学習実践研修会

日時 令和元年10月18日(金)

場所 伊勢市防災センター

対象 南勢地域の教職員12人

内容 避難所運営ワークショップ

講師 齋藤 幸男 東北大学非常勤講師

##### 具体的な内容

- ・ 避難所運営ワークショップを体験したり、講師から実際の石巻西高で被災し、避難所運営をした経験を聞いたりすることにより、学校が避難所になった際に生じるさまざまな課題について知り、避難所を運営するにあたり備えておくべきことを考えるきっかけとなった。

## ○ 家庭や地域と連携した各校の防災教育

学校防災アドバイザー（渡邊 喜内・大須賀 由美子）を講師として派遣し、防災教育の推進を支援した。

### ① 伊勢市立東大淀小学校

日時 令和元年10月4日（金）、8日（火）

対象 4年生17人

内容 「防災タウンウォッチング」「防災マップ作り」

具体的な内容

- ・ グループに分かれて、校区内を歩き、危険なもの、安全な場所、役に立つものを見つけ、写真撮影を行い、手持ちの地図上にチェックするとともに、一覧表に記録した。
- ・ 調べたことをもとに大きな地図上に表し、防災マップを完成させた。

### ② 大紀町立大宮中学校

日時 令和元年12月6日（金）

対象 全校生徒70人

内容 「クロスロード」

具体的な内容

- ・ 5名程度のグループに分かれて、さまざまな問題について賛成反対の意見を出し合い、自分の意見をより確かなものにしたたり、他の生徒の意見を聞いてその考えを取り入れたりすることで、災害時の対応について考えを深めていった。

### ③ 志摩市立志摩小学校

日時 令和2年2月25日（火）

場所 志摩小学校

対象 3・4年生93人

内容 三重県防災啓発車（地震体験車） 防災避難袋作り

具体的な内容

- ・ 地震体験車を活用して地震体験を行い、実際に地震の揺れが起こった際に自分の身を守る方法を実践することにより、防災意識を高めることができた。
- ・ 併設して防災避難袋作りを実施した。

## (イ) 学校防災ボランティア事業

### ① 志摩市立磯部中学校

日 時 令和元年10月1日(火)

参加者 全校生徒及び地域住民・保護者

内 容

- ・ 合同避難訓練
- ・ 事業参加生徒の取組成果報告



## (2) 鳥羽市での取組

### ア 講演会による啓発

#### (ア) 防災・減災教育講演会

市内外小中学校教員、市内外の教育委員会、行政関係者など 40 名が参加。及川幸彦氏を講師として招き、「学校と地域が連携した防災教育の推進」～南海トラフ地震に備えた地域との学び舎づくり～と題して講演会を開催した。持続可能な社会の実現をめざす防災教育について、具体例を交えながら話していただいた。

(イ) 対象：市内外小中学校教員・幼稚園教員、行政担当者 等

#### (ウ) 事業のねらい

講演会において、「持続可能な社会の実現をめざす防災教育の展開」について学ぶ。

#### (エ) 講師

東京大学大学院教育学研究科附属海洋センター  
主幹研究員 地球環境学博士 及川 幸彦 氏

#### (オ) 実施日

講演会：令和元年 12 月 24 日（火）



## イ 学校防災アドバイザーの講演による研修

### (ア) 防災・減災教育についての講演会

主にこの4つのテーマについて話していただいた。

- ・ 「生きる力」を育む
- ・ マニュアル主義からの脱却
- ・ 価値の共有
- ・ 防災・減災文化の醸成

### (イ) 対象：市内小中学校の防災担当者 等

### (ウ) 事業のねらい

実践を進めるにあたって、必要な視点を学ぶ機会とする。

### (エ) 講師 防災アドバイザー

三重大学大学院工学研究科  
准教授 川口 淳氏



### (オ) 実施日

講演会：令和元年8月26日(月)

## ウ 実践推進校による防災・減災教育の推進

### (ア) 拠点校：鳥羽東中学校、長岡中学校、加茂中学校、答志中学校 神島中学校

### (イ) 事業のねらい

実践推進校を5校指定し、「鳥羽市防災・減災学習プラン集」等を使用した防災・減災の授業実践を行い、学校防災アドバイザーの助言を受け、よりよい授業実践のあり方を学んだ。指定校以外の小中学校の教職員も参加し、鳥羽市内の学校全体に広げる。

### (ウ) 防災アドバイザー

三重大学大学院工学研究科 准教授 川口 淳氏

## (エ) 防災・減災教育授業講師

特定非営利活動法人 SEEDS Asia

## (オ) 研究推進校の実践

### ① 10月18日 鳥羽東中学校「体験をとおして」

災害についての知識を学習することから、避難生活を送るときに必要な防災袋の中身を考え、その後の学校に非常持ち出し袋を常備することにつながった。非常食について学ぶ学習では、火おこし体験の予定が、悪天候の影響で、室内でガスを使っての調理となったが、耐熱ビニール袋を使ってご飯を炊いて食べる体験ができた。そのご飯は非常食をおかずに試食した。別の学級では、非常食を水で調理して食べる体験を行い、新鮮な驚きをもって取り組めた。その他、『災害時を生き抜くために』というテーマで、HUGと応急処置講座も実施した。他小学校から教員4名が参加し共に学んだ。



### ② 10月25日 長岡中学校「避難所で必要なもの」

非常持ち出し袋の中身について、必要なものの理由を考える活動であった。6つのグループに分かれて検討した後、それぞれの意見を交流した。

川口先生からは、伊勢湾台風と2018年の21号台風の規模や災害を比較して、日本の防災減災力が上がっていることを説明していただいた。大人は20回台風が来て被害がなかったから、今回も逃げないという思考になってしまう。子どもが動くことが重要だから、子どもから大人に話してほしいと強く語られた。行政からの避難の呼びかけは5段階で、レベル3になったら、避難のスイッチを入れて逃げる、逃げないことは賭けとも言える危険なことであるとのお話だった。他小、中学校から教員5名が参加し共に学んだ。



### ③ 12月13日 加茂中学校「授業参観日に保護者とともに学ぶ」

防災アドバイザー派遣の日を授業参観日に設定し、保護者とともに学ぶ1日とした。各教室で体験型の防災学習を行った。

防災食についての学習では、紙の食器とスプーンを作成した。紙皿にラップをかけて、非常食を試食した。

避難所運営についての学習では、避難所におけるプライベートスペースの大切さを学んだ。中学校として周りの人々のためにできることとして、段ボールで仕切りを設ける体験をした。

自分でできる応急手当の学習では、三角巾や包帯等を使って、怪我等の悪化を防止できることを学んだ。

最後に『親子防災講話』と題し、川口先生から、なぜ人々が逃げないのかということについて、説明していただいた。



### ④ 1月17日 答志中学校「クロスロードゲーム・図上演習」

2限目に1年生で「クロスロードゲーム」に取り組んだ。他の人の意見を尊重することなど、マナーも同時に学ぶことができた。3限目は図上演習という形で授業を行った。それぞれの家の危険箇所を見つけ、その危険箇所がどのような状態になるのかを予測することで、対応策を考えることにつなげることができた。4限目、全校生徒を対象に、川口先生の「防災・減災講演会」を実施した。他地区での避難訓練の様子を紹介等をしていただいた。他小学校、中学校から教員5名が参加し共に学んだ。



⑤ 1月24日 神島中学校「登下校時と自宅に1人での避難」

登下校中には小学生も一緒にいることを想定して、自分たちが取るべき行動を考えた。ふりかえりでは、「親と防災について話す機会がなかった。これから相談したい。」「これまでも避難場所を決めていたが、みんなの意見を聞いて、見直したいと思った。」といった感想が出された。

続いて、川口先生からは、ヘルメットは大切だが、危険を冒してまでかぶる必要はないこと、自分の安全が確保されたら、周りに目を向けることなどを教えていただいた。給食時には神島小学校と連携して、防災食を食べる活動を行った。他小学校、中学校から教員4名が参加し共に学んだ。



⑥ 1月15日 鳥羽小学校「地域防災学習」

特定非営利活動法人 SEEDS Asia を招いて

4～6年生を対象に講演会を行った。大津山氏が防災事業に関わるようになったきっかけを始め、ハザードに対して普段からどのような準備をしておくのかについて話していただいた。

3年生の地域防災学習の授業研究会への参加、及び事後研修会での助言をいただいた。3年生には児童が気づかない視点からの質問をされ、児童の気づきを促していただいた。また、研修会においては、児童の発表をより広い範囲に伝えるという視点を与えていただいた。

⑦ 2月5日 鳥羽小学校「震災後も残していきたい文化」

特定非営利活動法人 SEEDS Asia を招いて

4・5年生の授業研究会及び事後検討会を実施した。「ぼうさいMAP」や震災後も残していきたい文化について授業を行い、東日本大震災後の復興での文化の破壊と持続について、多くの助言をいただいた。

来年度以降も、住み続けられる鳥羽をめざして、児童がどのように行動できるかについて、研究を進めていく。



### (3) 志摩市での取組

#### ア 学校防災研修会の実施

##### (ア) 第1回防災教育研修会

日時 令和元年8月5日(月)13:30-16:30

場所 阿児アリーナ ベイホール

対象 市内小中学校教職員 学校防災リーダー等 (47人)

講師 川口淳准教授(三重大学大学院工学研究科)

支援 矢吹匡(志摩市地域防災室防災技術員)、行政職員

内容 防災講話、「クロスロード」

具体的な内容

- ・ 川口先生より日本列島に頻発する地震津波災害や台風等による被害の状況、南海トラフ地震による被害想定等が具体的でリアルな映像を交えて伝えられ、防災の知識を身につけることの重要性や普段から備えることの必要性を再認識することができた。
- ・ 「クロスロード」では、災害時に発生する諸課題について小グループで意見交流することにより、多様な考えに気づいたり主体的に取り組む姿勢を身につけたりすることができた。



##### (イ) 第2回防災教育研修会

日時 令和元年10月1日(火)10:00-12:00

場所 磯部保育所、磯部幼稚園、磯部小学校  
磯部中学校(拠点校)、志摩高等学校

対象 5校種全幼児児童生徒(802人)と各教職員  
市内小中学校教職員

講師 矢吹匡(志摩市地域防災室防災技術員)

支援 鳥羽警察署、行政職員

内容 磯部地区5校種合同避難訓練(緊急地震速報システム連動)  
防災ボランティア報告会

## 具体的な内容

- ・ 隣接する 5 校種が同時に緊急地震速報システムと連動した合同避難訓練を実施した。2 回にわたる事前会議での確認事項を踏まえ、当日は総勢 650 人余りの参加となったが円滑に避難することができた。訓練後、矢吹防災技術員より指導助言を受けた。
- ・ また、学校防災ボランティア事業で宮城県や福島県に派遣された 2 人の中学生が報告会を行った。現地の方々との交流や心のケアを含めたボランティア活動の様子、東日本大震災の教訓等を取組の成果として報告した。市内小中学校教職員が参観し、自校の実践に生かすことができた。2 人の中学生は昨年度のボランティア報告会での先輩の姿に憧れ、参加を決めたとのことだった。

### (ウ) 第 3 回防災教育研修会

日時 令和元年 10 月 9 日(水)9:25-12:00

〃 11 日(金)9:25-11:00

場所 浜島小学校 浜島地区

対象 全校児童(93 人)、市内小中学校教職員

講師 川口淳准教授(三重大学大学院工学研究科)

支援 矢吹匡(志摩市地域防災室防災技術員)、自治会、民生員、PTA ほか

内容 防災講話、避難訓練(緊急地震速報システム連動)

防災タウンウォッチング、防災マップづくり

## 具体的な内容

- ・ 川口先生による講話の後、全校避難訓練を実施した。川口先生から、津波からののは、上履きのままではなく靴に履き替えて落ち着いて避難する方が良いということ、運動場での安否確認の後は、3 階ではなく体育館に集合するのがいいとのお話をいただいた。
- ・ その後、防災タウンウォッチングを行い、調べたことを大きい地図に落とし込み防災マップを完成させた。意見交流では、「今まで気づかなかった、大切なものがたくさんあることが分かった」等の感想があった。
- ・ 2 日間、地元テレビ局の取材があり、地域・行政とともに行う学校防災教育の実践として紹介された。



## (エ) 第4回防災教育研修会

日時 令和元年10月30日(水)9:30-12:30

場所 東海小学校

対象 全校児童(330人)、市内小中学校教職員

講師 川口淳准教授(三重大学大学院工学研究科)

渡邊喜内(三重県教育委員会学校防災アドバイザー)

金城指導員(三重県防災企画・地域支援課)

内容 防災講話、避難訓練(緊急地震速報システム連動)

三重県防災啓発車(地震体験車)、防災すごろく

具体的な内容

- ・ 地震・津波・台風などの自然災害や防災についての講話やクイズを通して、防災学習への意欲関心を高めた後、全校避難訓練を実施した。靴に履き替える際も混乱せず、子どもたちは落ち着いて行動できた。
- ・ その後、4年生は地震体験車と防災すごろくを体験的し、防災の知識と技能を身につけた。



## (オ) 第5回防災教育研修会

日時 令和元年12月4日(水)13:18-14:00

場所 志摩中学校

対象 全校生徒(184人)、市内小中学校教職員

内容 避難訓練(緊急地震速報システム連動)、防災講話

具体的な内容

- ・ 悪天候により中止となった小中合同の代替として実施した。
- ・ 予告なしで昼休み中に地震が発生した想定で実施した。1学期に実施した際よりも短時間に避難場所への移動を完了することができた。
- ・ 振り返りの中で、「自助」の意識とともに、周りの人々への配慮や「援助人」としての自覚を感じさせる発言が出された。

## (カ) 第6回防災教育研修会

日時 令和元年12月6日(金)10:15-11:00

場所 志摩小学校

対象 全校生徒(293人)、市内小中学校教職員

支援 自治会、民生員ほか

内容 避難訓練(緊急地震速報システム連動)、防災講話

具体的な内容

- ・ 悪天候により中止となった小中合同の代替として実施した。
- ・ 予告なしで業間の休み時間に地震が発生した想定で実施した。
- ・ 児童は事前学習の内容を踏まえて各場所で各自判断し、配置された教職員の指示により身を守る行動をとった。運動場で遊んでいた児童は、中心に集まり身を守る「だんご虫」のポーズをとった。
- ・ その後、教室にいた児童はヘルメットや上着を着用し、各場所から避難場所へ避難した。
- ・ 実施後、志摩中学校と情報共有し、校長会等で他校への発信を連携して取り組んでいくことを確認した。

## (キ) 第7回防災教育研修会

日時 令和元年12月16日(月)10:00-15:30

場所 東海中学校

対象 全校生徒(170人)

市内小中学校教職員

講師 川口淳准教授

(三重大学大学院工学研究科)

内容 防災講話、避難訓練(緊急地震速報システム連動)

避難所運営ゲーム「HUG」

具体的な内容

- ・ 川口先生による講話やクイズを通して、防災学習への意欲関心を高めたあと、休み時間に地震が起こったという想定で全校避難訓練を実施した。避難はスムーズに行えたが、外靴に履き替えようと立ち止まり危険であったため、履き替えず靴を持って避難場所まで移動し、到着後に履き替えるよう、川口先生から助言を受けた。
- ・ 午後、2年生がHUGを行うことにより、学校が避難所になった際の運営責任者としての判断を体験した。個々の状況の相違から起こる諸課題について考え、活発な意見交流を行った。



## イ 学校防災教育の実施

### (ア) 磯部中学校防災学習

日時 令和元年 9 月 6 日(金)10:30-12:30

場所 磯部中学校

対象 2 年生(47 人)、市内小中学校教職員

講師 渡邊喜内

(三重県教育委員会学校防災アドバイザー)

内容 避難所運営ゲーム「HUG」

具体的な内容

- ・ 自分の学校が避難所になった際、どのように避難所を運営するとよいか体験して難しさを実感し、多様な考えに気づきながら、中学生の自分に何ができるかじっくりと考えることができた。



### (イ) 大王小学校防災学習

日時 令和元年 10 月 2 日(水)10:30-15:30

場所 大王小学校、波切地区

対象 4 年生(25 人)

講師 渡邊喜内(三重県教育委員会学校防災アドバイザー)

内容 防災講話、防災タウンウォッチング、防災マップづくり

具体的な内容

- ・ 学校から避難場所まで 3 班に分かれて異なるルートで歩き、危険なもの、安全な場所、役に立つものを調べ、学校に戻って内容を確認しながら大きい地図に落とし込み、防災マップを完成させた。登下校中の自助の知識や技能を高めることにつなげることができた。



### (ウ) 志摩小学校防災学習

日時 令和元年 11 月 26 日(火)9:30-14:30

場所 志摩小学校、和具地区

対象 4 年生(47 人)

講師 大須賀由美子 (三重県教育委員会学校防災アドバイザー)

支援 矢吹匡 (志摩市地域防災室防災技術員)、民生委員、PTA ほか

内容 防災講話、防災タウンウォッチング、防災マップづくり

具体的な内容

- ・ 和具地区を 5 班に分かれて防災ウォッチングを行った。調べた内容を大きい地図に落とし込み、防災マップを完成させた。自分の居住地域でも、災害が発生した際に同様の視点で自助の力を発揮することが期待できる。



### (エ) 志摩小学校防災学習

日時 令和 2 年 2 月 25 日(火)

場所 志摩小学校

対象 3・4 年生(93 人)

講師 金城指導員(三重県防災企画・地域支援課)

内容 三重県防災啓発車 (地震体験車)、防災避難袋作り

具体的な内容

- ・ 地震体験車を活用して地震体験を行い、自分の身を守る方法をするとともに、防災意識を高めることができた。防災避難袋作りでは、各自が 1 つずつ 3 日分の避難生活に必要なものを理解しながら袋に詰めた。学校へ避難して来た人が自由に安心して使えるように「ひと言メッセージ」を添えて完成させ学校に保管した。なお、この避難袋は未使用の場合、卒業時に持って帰り、活用するよう数年継続して取り組んでいる。

## 8 東紀州地域の事業

### (1) 東紀州地域での取組

#### (ア) 防災教育推進支援事業

##### ○ 学校防災リーダー等教職員研修会

日時 令和元年8月20日(火)

場所 三重県尾鷲庁舎

対象 東紀州地域の小、中、高等学校、  
特別支援学校の防災担当教職員57人

内容 講義、防災教育実践事例紹介 他

講師 川口 淳 三重大学大学院准教授

水木 千春 みえ防災・減災センター助教

渡邊 喜内 三重県教育委員会学校防災アドバイザー 他

具体的な内容

- ・ 講義を聞くことにより、学校防災リーダーとしての役割を学ぶとともに、各学校の防災教育・防災対策に取り組むための意識の向上、防災に関する最新の知識・技能の習得、学校で防災の取組を推進していくための指導力、企画力の向上を図った。
- ・ さらなる防災教育の充実に向けて、家庭・地域と連携した防災の取組を先進的に行っている学校の事例を紹介し、東紀州地域の各学校への浸透を図った。

##### ○ 体験型防災学習実践研修会

日時 令和元年10月31日(木)

場所 三重県尾鷲庁舎

対象 東紀州地域の教職員20人

内容 体験型防災学習の実体験、防災グッズ制作、防災教育実践事例紹介

講師 津地方気象台職員

大須賀 由美子 三重県教育委員会学校防災アドバイザー 他

具体的な内容

- ・ 体験型防災学習は、児童生徒が学んだ知識を実感・体得したり、家庭・地域と一体となった防災の取組を進めたりする手段として大変有効であることを現場の先生方に実際に体感して、現場の学校教育の実践に役立ててもらった。

## ○ 家庭や地域と連携した各校の防災教育

学校防災アドバイザー（渡邊 喜内・大須賀 由美子）を講師として派遣し、防災教育の推進を支援した。

### ① 紀宝町立井田小学校

日時 令和元年8月28日（水）

対象 教職員・保護者・地域住民20人

内容 「避難所運営ゲーム（HUG）」

具体的な内容

- ・ 避難所運営ゲーム（HUG）を行うことにより、学校が避難所になった際の課題について考え、災害に備えることの重要性を再確認する機会となった。
- ・ 体育館が避難所に指定されているため、図上ではあるが、実際に起こるであろうさまざまな事態を想定して、避難所運営について考えることができた。
- ・ 避難所を運営していくためには、自主防災組織や学校運営協議会等との話し合いなど、地域との継続した連携が必要であることもあらためて理解することができた。

### ② 紀北町立海野小学校

日時 令和元年9月1日（日）

対象 全校児童11人

内容 「防災講話」「防災すごろく」「紙芝居」

具体的な内容

- ・ 近年発生した災害や、津波などの防災講話を聞くことにより、防災についての知識を身につけたり、意識を高めたりすることができた。
- ・ 防災すごろくを通じて、楽しみながら防災の知識を学ぶことができた。
- ・ 地域の防災訓練との合同での取組となった。

### ③ 尾鷲市立矢浜小学校

日時 令和元年年11月24日（日）

対象 全校児童59人、保護者、教職員

内容 「地震体験」（全校）、「防災すごろく」（1～3学年）、「クロスロード」（4～6学年）

#### 具体的な内容

- ・ 三重県防災啓発車（地震体験車）を活用しての地震体験を行い、自分の身を守るための方法を身につけた。
- ・ 1～3学年児童は防災すごろくを楽しみながら、防災の知識を身につけるとともに、防災についての意識を高めた。
- ・ 4～6学年はクロスロードを行い、災害時に発生するさまざまな課題について、それぞれの意見を交流することにより、多様な考えに気づくことができた。

#### ④ 熊野市立五郷中学校

日時 令和元年11月29日（金）

対象 全校生徒3人、教職員、保護者、  
地域住民、小学校児童、保育園児  
（参加者：40人）

内容 「地震体験」「防災すごろく」  
「液状化実験」「耐震化実験」  
「防災講和」



#### 具体的な内容

- ・ 地域の学校や、地域住民も参加しての活動で、中学校生徒だけでなく、地域全体の防災意識の向上に役立った。
- ・ 地震体験をすることで、実際の地震の揺れを理解し、実際の地震ではどう行動するべきか身を守るための方法を身につけた。
- ・ 地震体験と共に、耐震化実験を住宅政策課に行ってもらい、大きな揺れの中では筋交いの大切さや、家具の固定の大切さを保護者や地域の人々に啓発する機会となった。
- ・ 液状化実験を行い、地震や土砂崩れ以外にも危険があることを理解した。
- ・ 防災すごろくをすることで、楽しみながら防災の知識を学ぶことができた。

## (2) 御浜町での取組

### ア 学校防災アドバイザー

#### (ア) 第1回御浜町学校防災研修会（阿田和小学校第1回研修会）

日時 令和2年1月15日（水）9：00～12：30

場所 阿田和小学校家庭科室、阿田和小学校通学路

対象 6年生、教職員

内容 【防災学習】「タウンウォッチング」「マップづくり」

（6年生26人、教職員4人、その他7人）

具体的な内容

#### 【防災学習】

6年生を5班に分けて、2限目より阿田和地区をまわった。見るポイントは、①「危険な箇所」②「災害時に利用できそうなもの」③「火を消す道具やもの」であった。子どもたちは3限目までの間に、グループで話し合い、写真を撮りながら帰校した。

4限目は、阿田和地区の大きな地図に、写真を貼りコメントを書き、災害時に回避する箇所や利用できるものについて再確認し、できあがった地図を掲示板に貼り、全校児童に知らせることができた。



#### (イ) 第2回御浜町学校防災研修会（御浜中学校第1回研修会）

日時 令和2年1月27日（月）10：30～12：30

場所 御浜中学校武道場

対象 全校生徒、教職員

内容 【防災学習】「クロスロードゲーム」（全校生徒125人、教職員15人）

具体的な内容

#### 【防災学習】

阪神淡路大震災、東日本大震災という未曾有の異常事態に遭遇したとき、人々は正常性バイアスと同調性バイアスが心理的に作用する。防災における判断力や考えを深めるために「クロスロードゲーム」の有効性について、川口准教授から説明を受けた。5人ないし7人のグルー



プに分かれ、各課題について一人ひとりが「YES」、「NO」のカードを出し合い、「なぜ、そう考えるのか」についての意見交換を行った。

生徒たちは、

- ① 一人だけ違うカードを出した人には黄金の座布団がもらえる。
- ② 全員が同じ意見なら座布団はもらえない。
- ③ 出されたカードが割れたとき（例、3対2など）は、多いカードを出した人全員に青座布団がもらえる。

というルールの中で、災害等における非常事態では、「どちらかが正解」ではなく、これまでの経験や防災学習等で学んだ知識に基づいて、その時その時の判断を臨機応変に要求されることを学んだ。



川口准教授からは、「125名が各グループに分かれ、様々な意見交換が行われていたことはとても貴重で、子どもたちの中には防災への関心や意識の高まり、判断力や考え方が深まる機会になったと思います。」との講評をいただくことができた。

### (ウ) 第3回御浜町学校防災研修会（御浜小学校第1回研修会）

日時 令和2年1月27日（月）13:30～16:00

場所 御浜小学校 家庭科室

対象 6年生

内容 【防災学習】「タウンウォッチングをおえて」（6年生43人）

具体的な内容

#### 【防災学習】

6年生が、事前に御浜小学校校区内をタウンウォッチングしました。各班で担当場所を決め、防災安全面での工夫や危険箇所について探索しました。

それらの場所を写真におさめ、コメントをそえました。そのコメントカードを大きな拡大校区地図にはり、全体を見ることができるようになりました。



当日は、班ごとに自分たちが調べたことを元に川口先生に発表しました。タウンウォッチングをして気づいたこと、不安に思ったことや疑問に思ったことなどを川口先生に聞いていただき、その後のタウンウォッチングの目的や地震が起こったときどのような行動を取ったら良いかのアドバイスをもらいました。

また、地震発生のメカニズムや普段の生活の中でどういった視点で防災を考えていくのかについて教えていただき、海外を含む各地の災害について研究してみえる先生のお話から未来を生きる自分たちが何をすべきかについて考える時間にすることができました。



#### (エ) 第4回御浜町学校防災研修会（神志山小学校第1回研修会）

日時 令和2年2月3日（月）10：00～12：30

場所 神志山小学校 2階 多目的室

対象 全校児童、教職員

内容 【防災学習】「ストローハウスを作ろう」～ストローで学ぶ耐震構造～  
(全校児童28人、教職員 8人)

具体的な内容

##### 【防災学習】

地震における特徴的な被害に家屋等の倒壊があること。その被害を防ぐ丈夫な建物はどうやったらできるかを体験的に学ぶために「ストローハウス作り」を行った。



6つのたて割り班（4～5名）を作り、川口先生からストローのつなぎ方や三角形が変形しにくい丈夫な形であること、安定しない四角形は筋交いを入れることで強くなることなど基本的なレクチャーを受け、丈夫な建物づくりを目指して実習を進めた。子どもたちは色や筋交いの入れ方、高さへの挑戦など様々な工夫をしながらそれぞれの班の建物を作り上げた。その後、川口先生から班ごとに作った建物の講評をいただいた。

子どもたちは自分の手を動かしながら、作る建物が筋交い一つで丈夫になっていくようすを実感したり、斜めの筋交いが校舎の耐震補強でつけられた斜めの鉄骨と同じであることに気づいたりするなど、耐震について実感できる機会となった。

(オ) 第5回御浜町学校防災研修会（尾呂志学園小中学校第1回研修会）

日時 令和2年2月3日（月）13：30～16：00

場所 尾呂志学園小中学校 美術室

対象 全校児童生徒、教職員、地域・保護者

内容【防災講演】「大地震大津波にそなえる ～災害で生き残るために～」

（全校児童生徒 16人、教職員 12人）

【防災研修】「最新の防災事情」

（教職員 14人、地域・保護者 8人）

具体的な内容

【防災講演】

全校児童及び教職員が川口先生から、「日本は世界の中でもとびぬけて地震が多いこと」、「地震発生メカニズム」等について下記のとおり、わかりやすく教えていただいた。そして、津波避難の約束として「絶対あきらめないで、全力で。率先して避難する。仲間のことも忘れずに」という約束を示していただいた。

- ・世界で発生する地震の20%は日本で発生している。日本の中でも紀伊半島周辺は地震の多発する地域である。
- ・地震が起きる前に地震に備えて準備をしておくことの大切さ
- ・地震の後には、火災が発生する。火災を最小限にするためにできること。
- ・津波は、海水だけでなく津波が押し流してきた様々な物がいっしょに流れてくる。土石流のようなものだと考えたほうが良い。
- ・東日本大震災で逃げ遅れた人は、自分の意思で逃げなかった方が多い。地震が発生した時は、正しい知識を持ち、正しい行動をすることが重要である。周囲の意見に迷わされずに、率先避難者になることや、安全な場所への非難に全力を尽くすことを忘れてはいけない。

【防災研修】

防災研修では、地域・保護者・教職員を対象として、最新の防災事情について講演していただいた。

- ・いざという時に法に縛られて行動が起こせない場合がある。ある意味ではルールに縛られずに、命を守るために最善をつくすという意思が大切。
- ・様々な事故や、病気にかかるリスクと比べても、南海トラフ地震によるリスクは、はるかに高い。リスクマネジメントの観点から考えても直前に



せまったリスクとして捉え、対策をとっておく必要がある。

- ・国や市町の対応のみに頼るだけではなく、住民一人ひとりが自分と向き合い、自分の命を守れるような環境を自主的に整えておくことが大切である。
- ・ハザードマップは、現在の異常気象等を考慮しながら作り直しを繰り返している。最新のものを常に確認しておくことが必要である。

より詳しい巨大地震発生のメカニズムはもとより、日々の生活の中でどのように「防災」の視点を持てばよいのかについて説明していただいた。地域・保護者・教職員が同じ空間で同じお話を聞いたことは今後の防災への取り組みにおいて大変意義深いものとなった。

#### (カ) 第6回御浜町学校防災研修会（阿田和小学校第2回研修会）

日時 令和2年2月7日（金）9：00～16：00

場所 阿田和小学校

対象 全校児童、教職員（町内、近隣市町）、地域・保護者、行政防災担当

内容 【防災学習】 防災ノート等を使った防災授業と高台避難訓練

【防災研修】 1年間のまとめ（総括）

（全校児童 153 人、教職員 20 人、大学関係者 1 人、地域 5 人、育友会 2 人、行政 2 人、紀宝警察署員 3 人）

具体的な内容

##### 【防災学習】

全学年防災に関わる授業公開（参観）を行い、学年に応じた内容での防災授業を行った。

【1年生】 防災ノート「学校からの帰り道で大地震が起こったら」

【2年生】 「ピクトグラムの意味を考えよう」

【3年生】 「防災カードゲーム」

【4年生】 防災ノート「避難所に行かなければならなかったら」

【5年生】 「防災クイズ」

【6年生】 「避難所運営を考えよう」（HUG）

「防災ノート」による授業や、「防災カード」を用いた授業、「クロスロード」を用いての話し合い活動を中心に行う授業等を行った。

##### 【防災講話】

高台避難訓練を川口先生とともにを行い、その様子を見ていただき、その後、体育館にて、高台避難訓練の講評をいただいた。その中で、

～ つなみひなんのやくそく ～

- ・ ぜったいにあきらめないで、ぜんりよくで
- ・ そっせんして ひなんする
- ・ まわりをよく見て なかまのことをおもいやろう

とお話をいただいた。また、揺れていたら、安全な場所を判断して行動することの大切さを指導していただいた。そして、映像を見ながら地震の仕組みや津波についての講話をしていただいた。

### 【防災研修】

各学年の授業について、指導・助言をいただいた。どの学年も子どもたちがしっかりと考え、話し合いを進める中で、たくさんのことを学んでいた。

「防災には正解がないので、しっかりと考えを話し合わせ、様々な意見をフォローすることが大切である。」と助言を受けた。また、瓦やコンクリートブロックを実際に持たせたり、映像を吟味して、津波の実験映像を見せたりする工夫があることも指導していただいた。4年生の「クロスロードゲーム」や6年生の「避難所運営を考えよう（HUG）」は大変参考になったと講評をいただいた。

### （キ）川口先生からの講評

長年、継続して取り組んできたことがしっかりと生きている。また、全校生徒（125人）で行ったクロスロードゲームははじめどうなるかなと思っていたが、しっかりと取り組んでいた。普段からしっかりとした授業や生活を行っている積み上げがこうした時や本当に災害が起きた時に活きるのだと思う。

## 9 おわりに

南海トラフ巨大地震の発生が危惧されていることから、東日本大震災の教訓を踏まえて、実践的な安全教育、防災マニュアルの整備等が推進されてきた。児童生徒等を取り巻く多様な危険を的確に捉え、より一層、児童生徒等の安全が十分に確保されるよう対策を推進することが必要である。

三重県では平成24年度からこの事業に継続的に取り組み、事業実施主体においては、防災教育・防災対策及び交通安全・防犯対策が推進されており、一定の成果を上げてきている。

一方で、学校安全の推進に当たって、地域間・学校間・教職員間を取組の差が存在していることから、全ての学校において、質の高い学校安全の取組を推進することが求められる。

そのためには、中核となる教職員を中心とした組織的な学校安全体制を構築し、家庭や地域、関係機関等との連携・協働により取り組むこと必要があり、学校においては、地域との連携が図られるよう、日ごろから、学校活動に地域住民が参加したり、地域の活動に児童生徒が参加したりするなどの関係づくりに努めることも大切である。

また、モデルとなる先進的で優良な取組事例を広く周知し、他地域や他校に広めるとともに、継続、浸透するような仕組みの構築につなげていくため、今後もこのような事業を活用しながら、県全域で学校安全の取組の推進を図っていきたい。

# 学校安全総合支援事業 報告書

編集 三重県教育委員会事務局  
志摩市教育委員会事務局  
鳥羽市教育委員会事務局  
御浜町教育委員会事務局

発行 令和2年2月  
三重県教育委員会事務局  
教育総務課  
津市広明町13番地



P-00061  
この印刷物は、CSR  
に取り組む印刷会社が  
製作した印刷物です。



GREEN PRINTING JFP  
P-B10216  
この印刷製品は、環境に配慮した  
資材と工場で製造されています。